



表紙 仏花
石川 真樹 [茨城1組 福法寺]

花材 入オラン、アレカヤシ、
アジサイ、ナルコラン



Shinran
850th
800th

—〈2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃テーマ〉—

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

発行日 2022年6月1日

編集 教化委員会広報・出版部門

『ネットワークナイン』班 編集員
総編集長：本田 彰一（東京1）
チーフ：中村 晃（茨城1）
佐々木誠信（東京4） 朝倉 俊隆（東京5） 五島 大地（東京8） 小田 俊彦（茨城1） 大山 信敬（茨城2） 佐々木 萌（長野5）
チーフ：田上 翼（茨城1）
坂東 性悦（東京2） 平松 正宣（東京3） 櫻田 純（東京6） 秦 顕生（湘南） 和田 祐樹（三浦）
チーフ：田宮 真人（東京8）
土岐 孝広（東京1） 内藤 友樹（東京1） 渡邊 尚康（東京3） 相馬 法道（茨城1） 鞠川 卓史（湘南）

発行 真宗大谷派東京教区教化委員会
〒177-0032 練馬区谷原1-3-7東本願寺真宗会館
TEL. 03-5393-0810 FAX. 03-5393-0814 Email. nw9@ji-n.net
ご意見、ご感想は上記連絡先までお願いします。

もくじ

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業

慶讃テーマ周知フライヤー

- 03 『南無阿弥陀仏ってなあに?』発行

特集 同朋会議報告

慶讃法要に向けた

- 04 教区の取り組みと現状

- 16 法語ポスター

教区教化通信 研修部門

- 18 聖典学習会 「正信偈」に学ぶ

教区教化通信 青少幼年部門

- 20 青年のつどい 兼 青年研修会 早川 義亮

教区教化通信 大谷保育協会

- 22 子育ての大地 那須 恵

はい!こちら真宗会館です

- 24 駐在日記 佐々木 弘明

はい!こちら真宗会館です

- 25 所員のつぶやき 西藤 量樹

はい!こちら真宗会館です

- 26 人事異動挨拶

- 31 涌 櫻田 純

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

慶讃テーマ周知フライヤー

『南無阿弥陀仏ってなあに?』発行

南無阿弥陀仏ってなあに?

好きな自分と嫌いな自分...

こんな自分は好きだけど、こんな自分は嫌い
昨日まで好きだった自分が、今日はなぜか嫌いな自分になっている
そんな自分が許せなくなって、また嫌いな自分になっていく...





なむあみだぶつ
南無阿弥陀仏って「比べなくていい」ってこと!!

南無阿弥陀仏は あなたは何とも比べることのできない尊い存在であることに気付いてほしいという願い
好きな自分って誰かと比べて優れている自分かもしれない
嫌いな自分って誰かと比べて劣っている自分かもしれない
もしかしたら自分の中にある「過去の自分」「理想の自分」と比べているのかもしれない
「好き」とか「嫌い」とか、「優」とか「劣」とかではない
過ぎ去った「過去の自分」でもない
自分が勝手に作り上げた「理想の自分」でもない
何も足さなくても、何も引かなくても
今ここを生きている自分が、「自分のままに尊い」



梵思(らんおん)くん
(本山公式キャラクター)

Shinran 850th 800th —(2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃テーマ)—

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

東京教区宗祖親鸞聖人御誕生850年
・立教開宗800年慶讃事業

暮らしにじいーん



本山でお勤めされる慶讃法要まで残すところあと1年を切り、いよいよ機運が高まりつつある昨今、広報部会より慶讃テーマ周知のためのフライヤー『南無阿弥陀仏ってなあに?』を発行いたしました。

慶讃法要テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」を広報部会委員一人ひとりが受けとめ、広報部会としてのコンセプトを「大丈夫だよ 生きていけるよ 悩んでいいんだよ」としました。このフライヤーは、生活をしている方が抱えている課題、例えば「孤独」、「自己肯定感」、「障がい」など、そのような課題に「南無阿弥陀仏」はどのように応えるだろうかということを考えていくために作成いたしました。

単発的な発信ではなくシリーズとして、教区慶讃法要(2025年・春)まで年に数回の発行を行い、生活をしている方の課題に「南無阿弥陀仏」がどのように応えるのかということを表現してまいりたいと思います。慶讃テーマの願いの元、人と生まれたことの意味をたずねる歩みを、お一人お一人がなされますことを念じております。

特集

慶讃法要に向けた 教区の取り組みの現状

去る2022年4月27日、オンライン形式で「2021年度東京教区同朋会議」が開催され、「慶讃法要に向けた教区の取り組みの現状」の報告や、本山企画調整局より「教区寺院活性化支援室設置」についての説明がなされました。

今回の特集では、同朋会議の議題として取り上げられた「慶讃法要に向けた教区の取り組みの現状」について、教区慶讃法要企画運営委員会及び各部会からの報告を掲載致します。

「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」をお迎えるにあたり、教区内の皆様のご理解・ご協力をいただく機縁になればと思います。

委員長挨拶



教区慶讃事業企画運営委員会 委員長

渡辺 智香（川崎組 西福寺）

東京教区では、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要並びに関連事業が、今から8年前の2014年6月4日に、東京国際フォーラムで開催された東京教区御遠忌記念大会をもって締めくくられ、そしてそのとき採択された「2014東京宣言」を基本的な指針として向後50年を見据えた新たな歩みが始まりま

した。

それから8年、私たちの歩みはどうだったでしょうか。「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」をお迎えする今こそ、様々な取り組みを通して自らを問い直す必要があると思います。そして、再び、向後に向けた力強い一歩を踏み出していかなければなりません。この時この場に居合わせたことを勝縁と喜び、ともどもに歩を進めてまいります。

そこで東京教区における慶讃事業の取り組みですが、一昨年の12月に「教区慶讃事業企画運営委員会」を立ち上げ、団体参拝部会、お待ち受け・法要部会、教化推進部会、広報部会という4つの部会に分かれて活動をスタートしました。

しかし当初より、新型コロナウイルス感染拡大により、対面の会議ができないなど、思うように取り組みを進めることができず、そのようなことも影響して、現時点においても、

気運の高まりが十分とはいえない状況だと感じています。そういった中で、各部会ではオンラインの活用など出来る限りの工夫をしながら鋭意取り組みを進めてまいりました。これまでご尽力いただきましたスタッフの方々、そしてご協力いただきました各組の皆様にご心より御礼申し上げます。

このあと、それぞれの部会の主査から具体的な報告をいたしますが、本日の同朋会議を機に、あらためて、「慶讃法要ならびに関連事業」の意義をお確かめいただき、それぞれのご寺院、それぞれの組におかれましては、教区の慶讃事業に対する一層のご理解とご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

なお、教区の慶讃法要については、2025年の4月に厳修を予定しております。何卒よろしくごお願い申し上げます。

団体参拝部会



団体参拝部会 副主査

草野 文明くさの ぶんめい（長野5組 正敬寺）

団体参拝部会では2023年3月・4月に本山で厳修されます「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」に、1人でも多くの方々に出席していただきたいという願いに立ち、東京教区団体参拝計画概要を作成いたしました。

この慶讃法要が、本願念仏の教えをいただ

く大切な時と場である御仏事であることを東京教区全体の願いとして、各組に団体参拝のご協力をお願いをさせていただいております。

まず団体参拝につきましては、本山より、5030人の目標人数が割り当てられました。各組に対しましては、事前に団体参拝に関する聞き取り調査を行い、参拝目標人数などをお聞きしました。その後、団体参拝部会の「小委員会」を設置しまして各組の目標人数を設定いたしました。そして昨年6月に慶讃法要の概要や各組に目標人数についてのお知らせを行いました。

また、各組の組長におかれましては、昨年7月の正副組長会において、団体参拝部会より各組に対して団体参拝のご協力のお願いと、本山指定の幹事代理店の旅行業者（5社）からの参拝プランの提案をお聞きいただきました。これらの取り組みを受けて、各組におかれ

ましては、組長中心に団体参拝の計画、募集を行っていただいております。

今年3月1日より申し込みが開始され、本日4月27日午前現在、東京教区では21団体923人の団体参拝申し込みがあります。

また、本山の申し込み期間の締め切りは8月末日となっておりますが、東京教区におきましては、教区主催団体参拝の募集を行うにあたり、一旦、5月末日を締め切りと定め、申し込み状況の確認をさせていただきます。申し込み状況により、締め切りを延長したいと思っておりますので、改めて通知いたします。

慶讃法要もいよいよ来春に迫ってまいりました。現状はコロナの状況も心配される中ではありますが、一人でも多くの方にご参拝いただけるよう、引き続き、各組で取り組みを進めていただきますようお願いいたします。

基本日程

〈法要は一日一座で勤まります〉

第1期 法要 午後法要

2023年 3月25日(土)～4月8日(土)

13時00分 集会
13時20分 勤行
14時30分 法話
15時00分 日程終了

第2期 法要 午前法要

2023年 4月15日(土)～4月29日(土)

9時40分 集会
10時00分 勤行
11時10分 法話
11時40分 日程終了



期間中は毎日、法話があります。

■ 第1期法要日別日程

4月1日(中)は音楽法要、3月25日(初日)・4月8日(結願)は伝統法要で勤まり、結願は参堂列が行われます。

3/25 (土) 初日	3/26 (日)	3/27 (月)	3/28 (火)	3/29 (水)	3/30 (木)	3/31 (金)	4/1 (土) 音楽法要 中日	4/2 (日)	4/3 (月)	4/4 (火)	4/5 (水)	4/6 (木)	4/7 (金)	4/8 (土) 結願
午後	午後	午前	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午後

■ 第2期法要日別日程

4月16日は音楽法要、4月15日(初日)・22日(中)・29日(結願)は伝統法要で勤まり、結願は参堂列が行われます。

4/15 (土) 初日	4/16 (日) 音楽法要	4/17 (月)	4/18 (火)	4/19 (水)	4/20 (木)	4/21 (金)	4/22 (土) 中日	4/23 (日)	4/24 (月)	4/25 (火)	4/26 (水)	4/27 (木)	4/28 (金)	4/29 (土) 結願
午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午前	午後	午後

讃仰期間について

◆ 讃仰期間: 4月9日(日)～4月14日(金)

第1期法要期間終了の翌日から第2期法要期間開始の前日までの間を「讃仰期間」と位置づけ、期間中毎日讃仰勤行が勤まります。

※讃仰期間中は座席指定はありませんので、ご自由に参拝いただけます。

■ 讃仰勤行【御影堂】

時間: 10時～
次第: 正信偈 草四句目下
念仏讃 洵三
和讃(弥陀成仏のこのかたは)
回向(願以此功德)

讃仰勤行終了後、
法話があります。

※4月13日は、讃仰勤行の前の
9時20分から法話があります。

2023年
5月5日
(金・祝)

子どものつどい in 東本願寺

おつとめ、帰敬式、遊びのブース設置など、一日をおし子どもたちが真宗本願(東本願寺)で楽しく過ごせる企画を実施します。

日 時: 2023年5月5日(金・祝) 10時～16時
会 場: 真宗本願(東本願寺)
テ ー マ: 「であうつながるともにある」
募集人数: 1,650名
※お申し込み方法や詳細が確定次第、『真宗』誌、『同朋新聞』、『慶讃法要特設サイト』にてお知らせします。



慶讃法要 - 参拝のご案内 - より

教化推進部会



教化推進部会 主査

白山 勝久（東京5組 西蓮寺）

教化推進部門では、今後3つの事業を計画しています。

1つ目は「帰敬式法座」。お寺のつどいがなかなか開けない状況のなか、帰敬式を待ちわびているご門徒にご法話をお届けする法座を計画しています。ご講師は今泉温資先生

にお願いしました。開催日（今泉先生には真宗会館でお話しいただき、ライブ配信します）は、第1回目は8月29日（月）、第2回目は10月25日（火）、第3回目は12月6日（火）。各寺院でも聴聞いただけますし、真宗会館・横浜別院・甲府別院では、スタッフと共に聴聞し座談会の準備もしています。そして第4回目は2023年1月26日（木）の教区報恩講帰敬式にて受式いただくことを計画しております。今泉先生のお話しはアーカイブ（記録）配信いたしますので、各寺院における帰敬式執行の際のご法話として、今後もしもご聴聞いただけます。

2つ目は「法話配信」。本年8月より、毎週水曜日の午後6時に法話の配信を計画しています。法話される方には、①親鸞聖人との出会い、②慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」、③私の

出会った大切なひと言、の中からテーマを選び、3分から5分の間で法話をいただきます。「法話配信」は、法話を待ち望まれている方へお届けする目的と共に、法話者の研鑽も目的としています。1カ月分の配信にあたる4名の方に真宗会館にお集まりいただき、収録を行います。その際、法話者、教化推進部会スタッフ、教区駐在教導で気づいたことを語り合い、お互いの研鑽に努めたいと考えています。

3つ目は「子ども慶讃法要」。東京教区の慶讃法要が2025年4月に計画されています。その前後に東京教区としての「子ども慶讃法要」を計画しています。そのために、教区内で青少年教化に携わっている方々と準備委員会を立ち上げました。少し検討を重ねた後、実行委員会体制へ移行します。

帰敬式法座



いまいづみ としし
講師：今泉 温資 氏

(地域同朋の会 往生人舎主宰)

期日：

〈第1回〉2022年8月29日(月) 14時～

「今 聞く 浄土真宗」

〈第2回〉2022年10月25日(火) 14時～

「今 出遇う 親鸞聖人」

〈第3回〉2022年12月6日(火) 14時～

「今 名告る 法名」

〈第4回〉【教区報恩講帰敬式にて】

2023年1月26日(木)

「今 帰敬式を受式して」

※詳しくはチラシ、実施概要をご覧ください。

慶讃法要の意義を 学ぶ研修会



お話①「慶讃法要の願いについて」

酒井 義一 氏 (東京5組 存明寺)

お話②「慶讃テーマについて」

白山 勝久 氏 (東京5組 西蓮寺)

お話③「慶讃法要への想い」

柴崎 光 氏 (茨城1組 一乗寺 門徒)



<https://youtu.be/HrIWWG4tQt0>

YouTubeにてご視聴いただけます。
上記QRコード、URLよりアクセスください。

教区 子ども慶讃法要

実施期日：2025年 歳修(予定)



定例法話配信

実施時期：2022年8月～

実施方法：YouTube配信

配信日時：毎週水曜日 18時



お待ち受け・法要部会



お待ち受け・法要部会 主査

須賀 力 (東京5組 道教寺)

お待ち受け・法要部会主査を承っております。東京5組道教寺の須賀と申します。よろしくお願いたします。

既に皆様のお手元にはチラシが配布されているかと思いますが、6月13日の午後1時30分から東京教区のお待ち受け大会が開催されます。当日は大谷暢裕(門首のご挨拶、

そして正信偈のお勤め、その後内局の挨拶、そして記念講演といたしまして池田勇諦先生のご法話を頂戴する予定でございます。お配りしているチラシの裏側にタイムスケジュールが掲載されておりますので、当日の日程をご確認いただければと思います。

この度の法要は東京教区500カ寺からつながるオンラインお待ち受け大会としております。東京教区の皆様には是非ともZoom配信からの参加をお願いいたします。また、各寺院で法座の会を開いていただきまして、ご門徒とともに視聴いただければと思っております。またYouTubeでも同時配信をいたします。他教区の方、並びに全世界の方々と共に聴聞してまいりたいと思っております。皆様のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。各寺院でのZoom配信視聴につきまして、ご不明な点等がございましたら教務所にご相談いただければ対応させていただきます。

また5月中に全寺院に発送させていただきますが、パンフレットを作成しております。このパンフレットにはご門首の挨拶と宗務総長の挨拶が掲載されております。各寺院での法座の際にご活用ください。部数が不足した場合は教務所にご連絡いただければ追加分をお送りさせていただきます。また当日は録画という形になりましたが、Tokyoサンガ9の皆様に真宗宗歌、そして恩徳讃の斉唱をお願いしております。また休憩中には各組の活動報告の写真を掲載させていただく予定であります。合わせてご覧いただければと思います。

2025年4月には東京教区の慶讃法要も予定しております。詳細が決まりましたらご報告させていただきます。

最後になりましたが、6月10日午前10時から法要に向けて真宗会館講堂においておみぎ奉仕を行います。ご参加いただける方は教務所までご連絡ください。

Shinran
500th
SS00

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの
意味をたずねていこう

宗祖親鸞聖人
御誕生八百五十年
立教開宗八百年慶讃法要

東京教区
お待ち受け大会



東京教区 500カ寺からつながる
オンラインお待ち受け大会

2022年6月13日(月)



講師
池田 勇諦氏
(同朋大学名誉教授)

📺 ライブ配信
LIVE 13時30分開会 15時30分閉会

※6月13日当日は、真宗会館へのご参詣はできません

この度のお待ち受け大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を予見できないことから、従前のように一堂に会する形式ではなく、動画配信サイト「YouTube」によるオンライン配信となります。また、顔を見合わせる場となることを願い「zoom」によるご参詣も可能です。それぞれの参加方法につきましては、東京教区ホームページ「暮らしにじいん」をご覧ください。



「zoom」による参加方法
暮らしにじいん 検索

主催 真宗大谷派東京教区 共同主催 真宗大谷派東本願寺 真宗会館(東京教務所) | TEL:03-5393-0810 mail:tokyo@higashihonganji.or.jp

東京教区「お待ち受け大会」特設サイトは、こちらから。 ⇒⇒⇒

https://peraichi.com/landing_pages/view/2022omachiuke ⇒⇒⇒



広報部会



広報部会 主査

本田 彰一（東京1組 本明寺）

広報部会では本山、教区で行われる慶讃法要、並びに慶讃テーマ、教区慶讃事業についての広報という事に取り組んでおります。

まず広報部会が発信する上で、「慶讃法要とは何ぞや」という話し合いからスタートしました。その話し合いの中から、広報部会のコンセプトを「大丈夫だよ生きていけるよ 悩んでいいんだよ」とし、生活をしている方の抱える課題に「南無阿弥陀仏」はどのように

応える（レスポンド・反応する）だろうかというを通して慶讃テーマ「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」を伝えるフライヤー『南無阿弥陀仏ってなあに？』を作成いたしました。教区慶讃法要が厳修される2025年まで定期的に発行してまいります。

次に、『慶讃バンド』（帯と楽団のダブルミーニング）です。効果を検証するために私一人でサンプルを付けていましたら、門徒さんからは「それは何を付けているんですか？」とお尋ねがあり、中には「住職、それ新しい袈裟なの？まだタグが付いているよ」と言われることもありましたが、それもきっかけですね。このような縁を頂き、教区内に、ひいては全国にも広げたいと思い、全国の寺院にも本山発送を利用してお送りさせていただきました。私の目論見としましては、このやり取りが最終ではなく、SNSで「慶讃バンド付けました」と「#慶讃バンド」を付けて発信してもらいたいと考えております。

他にも、教区教化委員会・広報出版部門と連携し、教区ホームページ「暮らしにじいーん」のリニューアルも慶讃事業として行わせていただいております。こちら側からの一方

的な発信ではなく「大谷派っていいじゃん」と言ってもらえるようなホームページづくりをコンセプトに進めております。各寺院の紹介ページ作成に当たり、各寺院の寺院情報、またお寺の風景がわかる写真のご提供を頂きたく、改めてお願いさせていただきますのでその際は何卒よろしくお願いいたします。別に教区慶讃事業を発信する特設サイトも作成いたします。

また、教区の出版班において、『慶讃テーマポスター』の他、本山が示した慶讃法要までの5つの重点教化施策の内の『青少年教化、寺院活性化、真宗の仏事の回復』に資する事業として『初参り式リーフレット』並びに『初参り式の手引き』を作成いたしました。

教区教化委員会報『ネットワーク9』におきましては、慶讃事業の取り組みについて毎月発信してまいります。

最後に広報という事業は、広報部会で完結するものではありません。各寺院において、住職、坊守、寺族、門徒、一人ひとりが慶讃法要、慶讃テーマを受けとめ、共に考え、共に発信していただきますこと、ご協力お願い申し上げます。

慶讃テーマポスター

真宗大谷派（京都・東本願寺）
2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要

テーマ
『南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味を
たずねていこう』

法要期間
第一期法要 2023年3月25日～4月3日
二期法要 2023年4月9日～4月14日
第三期法要 2023年4月15日～4月29日

「テーマの趣意・願いについてはこちらをご覧ください。」

The 850th Celebration of Shinran Shonin's Birth and the 800th Anniversary of the Establishment of Jodo Shinshu

Theme
Namu Amida Butsu
To Discover the Meaning of Being Born as Human Beings

慶讃テーマ発信フライヤー
『南無阿弥陀仏ってなあに？』

南無阿弥陀仏ってなあに？
好きな自分と 嫌いな自分...

こんな自分は好きだけど、こんな自分は嫌い
昨日まで好きだった自分が、今日はなぜか嫌いな自分になっている
そんな自分が許せなくなって、また嫌いな自分になっていく...

南無阿弥陀仏って「比べなくていい」ってこと!!

南無阿弥陀仏は「あなたは私も比べることのできない尊い存在であることに気付いてほしい」という願い
好きな自分と嫌かと比べて傷れている自分かもしれない
嫌いな自分と嫌かと比べて劣っている自分かもしれない
もしかしたら自分の中にある「過去の自分」「理想の自分」と比べているのかもしれない
「好き」とか「嫌い」とか、「優」とか「劣」とかではない
過ぎ去った「過去の自分」でもない
自分が勝手に作り上げた「理想の自分」でもない
何も足さなくても、何も引かなくても
今ここを生きている自分が、「自分のままに尊い」

賢恵（らんじん）くん
（本はは正式キャラクター）

Shinran 5800 南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

暮らしにじいーん

初参り式リーフレット

お寺に初参り
しませんか？

真宗大谷派
（京都・東本願寺）

慶讃バンド

宗祖親鸞聖人 御誕生 立教開宗 真宗大谷派（東本願寺）
南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう



※各広報物は、教区 HP「暮らしにじいーん」よりダウンロードしていただけます。

※印刷物としてご入用の場合は東京教務所までお問い合わせください。

同朋会議 「慶讃法要に向けた取り組み」について

ご意見ご感想 ※一部抜粋

団体参拝の計画を立てるにあたり、本山からの情報発信が遅すぎます。

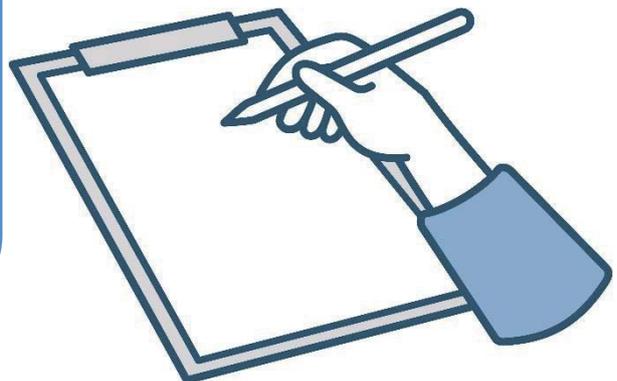
団体参拝について先ず総代に集まっていたいただき、私たちが親鸞聖人御誕生八百五十年、立教開宗八百年に必然的に縁している事を伝え、どのように自坊門徒様に参拝いただけるかを話し合ったところです。

団体参拝について、できるだけ多くの門徒に参拝していただけるよう募集活動を行いたい。

この同朋会議でも「盛り上がり」に欠ける」とご挨拶があったように、今ひとつ力が入りません。コロナウイルスの感染拡大のこともありすが、宗門自体がまず慶讃法要を優先せねばならないのに宗革が先行してしまったように思います。

慶讃法要団体参拝を募集している。また、本山での法要の時に帰敬式受式を推奨している。受式希望者には、団体参拝までの期間に2回の組主催の帰敬式講座を計画している。

慶讃法要を勝縁として、聞法求道の仲間を増やそうと企画している。寺報で次のように呼びかけた。「一、毎日御本尊を礼拝し念仏申しましよう。一、月に一度は、寺に足を運び聞法しましよう。一、法名をいただき仏教徒の自覚を持ちましよう。」あらゆる機会に仏法を語り合う仲間になることを勧めたい。



団参部会の回答で、教区参加希望数5、030名中21団体923名の参加希望があったとあるが、団参する組と団参をしない組、まだ決めかねている組の数を明確にさせていただきたい。

推進員養成講座を開催し、新たに推進員になられた方々と組の慶讃法要を計画していきたいと考えている。

慶讃法要の各事業と「是梅陀羅」問題といった課題がなかなか結びつきません。これは皆さんに対する疑問という事では無く、私自身の中でなかなか結びつかないということです。

団体参拝について、組から住職への細かい内容の説明がないので、まだ決定していない。

組主催慶讃法要執行へ向けた準備の為の企画会の立ち上げ。組主催法要に向けた先行事業として、教区推進員養成講座開催へ向けた学習会等の取り組み。

寺族の声

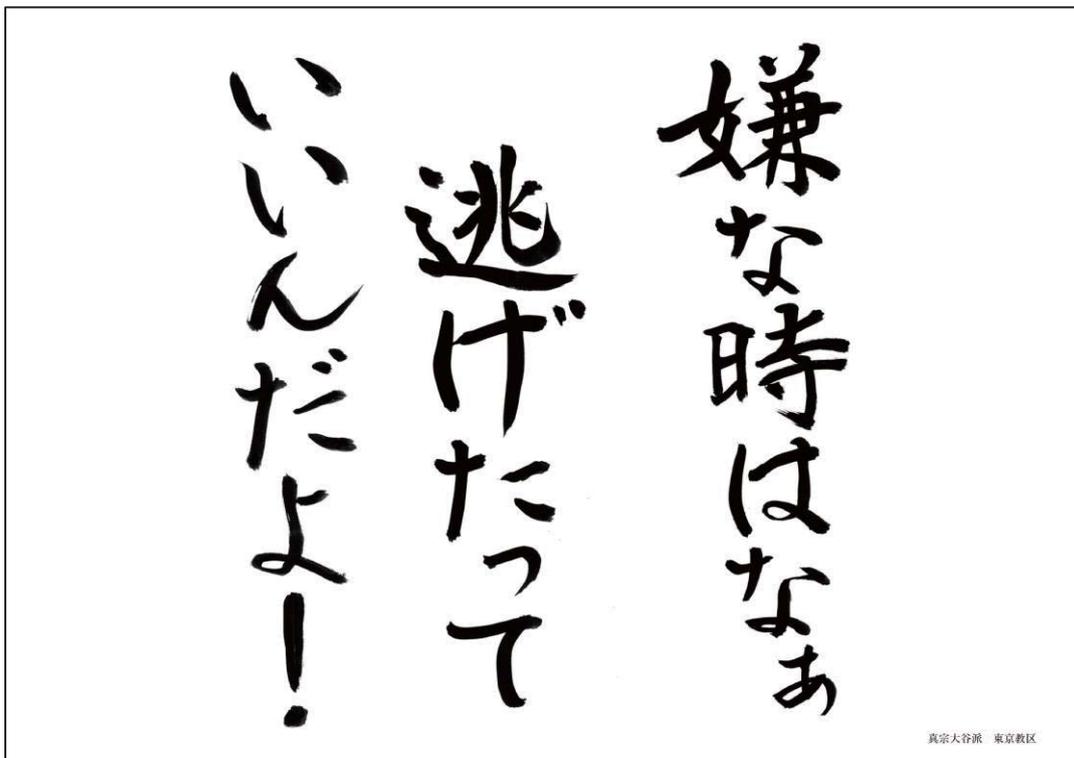
自分事として、この法要へ向かっていくことが必要である。その意味でも「御誕生八百年・立教開宗八百年」ということが一つのこととしてあるという受け止めは大事であり、その歴史の中にこの私がいるという事実を常に確認して歩んでいく必要がある。

ご門徒の声

「御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」に対する、白山氏の受け止め（宗祖親鸞聖人の「誕生」と「立教開宗」は、ふたつの出来事を一緒にお祝いするというのではなく、ひとつの大きな循環（出来事）。聖人の教えを聞いた私が、「南無阿弥陀仏」と念仏を称える人となる。その姿は、後を生きる人へと受け継がれてゆく。「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」は、ひとつの大きな循環のなかにいる私を自覚する法要であると感じていきたい。このお話から、自身の慶讃法要への方向性が少し見えてきたように感じる。

「ご意見ご感想をお寄せいただき、ありがとうございます。」

今月の法語



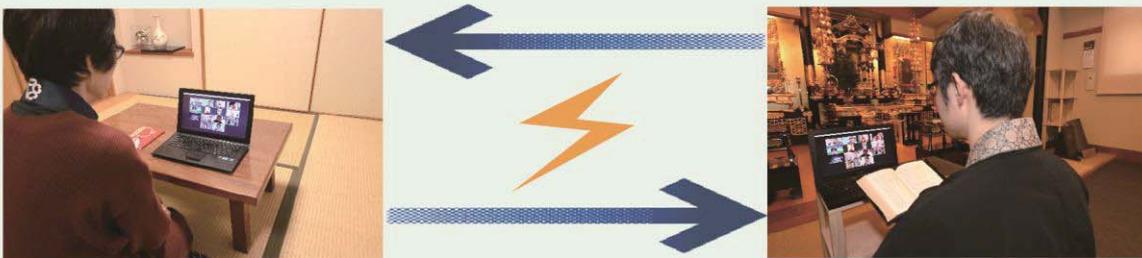
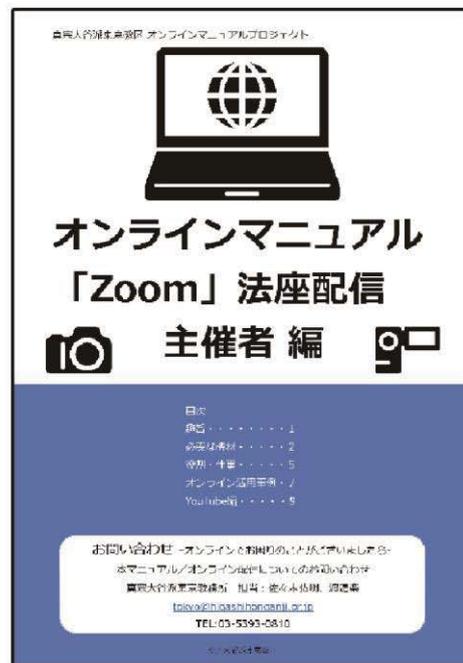
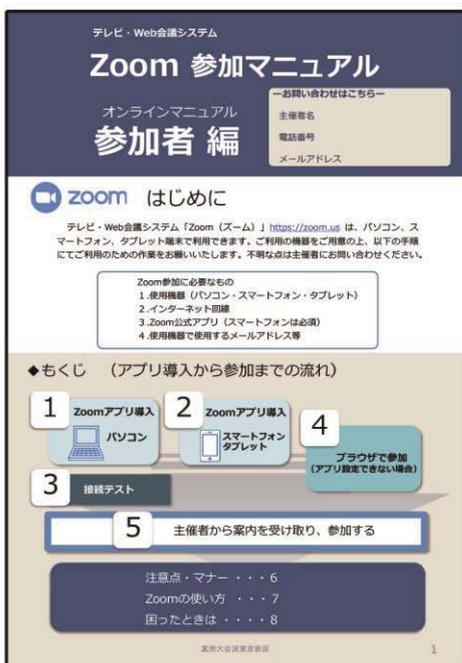
書：佐藤 多仙

- ・頒布中「掲示伝道用ポスター」(A2 サイズ)
「掲示伝道ポスターミニ」(ポストカードサイズ)
- ・「掲示伝道用ポスター」が貼れる門徒宅用掲示板を無償設置いたします。
詳細は東京教務所まで。

web会議ツール Zoom 用 オンラインマニュアル

主催者編 & 参加者編

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、オンライン法座を検討されている方々への一助となるよう、東京教区では web 会議ツール「Zoom」用のオンラインマニュアルを作成しました。
 ダウンロードしての印刷・配布はもちろん、独自に文字等を変更することも可能です。
 どうぞ下記、東京教区ホームページよりダウンロードしてご活用ください。



真宗大谷派東京教区ホームページ (暮らしにじいん)
<http://www.ji-n.net> にてダウンロードできます。

※web版は随時バージョンアップし、アップロードしていきます。

問い合わせ先 東京教務所 (佐々木・渡邊 楽)

教区教化通信 研修部門

聖典学習会 「正信偈」に学ぶ

講師：一楽 真 氏（大谷大学学長）

開入本願大智海 行者正受金剛心
慶喜一念相應後 与韋提等獲三忍
即証法性之常樂

(書き下し文)

本願の大智海に開入すれば、
行者、正しく金剛心を受けしめ、

慶喜の一念相應して後、
韋提と等しく三忍を獲、

すなわち法性の常樂を証せしむ、といえり。

『真宗聖典』二〇七頁

「本願の大智海に開入すれば、行者、正しく金剛心を受けしめ、慶喜の一念相應して後、韋提と等しく三忍を獲、すなわち法性の常樂を証せしむ」と、全部一続きであります。これは「本願の大智海に開入す」という、ここに衆生におこること、あるいは私たちのうえに与えられる利益と言つてもよいですが、何が起るのかということ、後の四句で書いておられます。「行者、正しく金剛心を受けしめ、慶喜の一念相應して後、韋提と等しく三忍を獲」ということです。さらには、即座に「法性の常樂を証せしむ」と、こういう利益が語られています。そういうことを引き起こしてくる、我々に与えてくる大本が「本願の大智海に開入すれば」という言葉になっています。「開入」というのは、『法華經』に説

かれる「出世本懐」、『法華經』では「一大事因縁」と言います。仏は何のためにこの世に現れたのか、『法華經』では「一大事」という言葉で言われています。仏がこの世に出てきた一番大事なことは何か。これは釈尊が語っておられるのですけれども、釈尊だけではないのです。ありとあらゆる仏さまが皆この願いを持っているということが出てきます。

仏というのは願いを共有しておられるのです。Aという仏とBという仏は、違うことを考えているということはないのですね。仏のさとりは等しいのです。善導の言葉を使えば、「同体大悲」という言葉がありますね。体を同じくする大悲の心。これが仏の願いが共有されているということの意味です。これを『法華經』は確かめているのですね。

■開示悟入

仏の知見を開き、仏の知見を示し、仏の知見を悟らしめ、仏の知見に入らせしむ、これら

をまとめて「開示悟入」と言われています。

これが『法華経』の言い方であります。「開入」がここから引かれたとまで言うつもりはありませんけれども、経典の課題ですね。『法華経』を説かれたのも釈尊ですから、釈尊の出世本懐を思うときに、我々に仏の世界を開いて入らせようという、開入という仕事が善導のところで言われていることが、非常に重い意味を持つていると思っております。

弥勒菩薩、長跪して白して言わく、「仏は威神尊重にして、説きたまうところは、快く善し。仏の経語を聴きたまえて、心に貫きてこれを思うに、世人実に爾なり。仏の言うところのごとし。今仏、慈悲して大道を顕示したまうに、耳目開明して長く度脱を得つ。

『真宗聖典』六三頁

『法華経』の例を挙げましたけれども、『大経』のお言葉で確かめておきます。上巻では対告衆である阿難に対して呼びかけられています。下巻では弥勒菩薩に語られますね。

これは弥勒菩薩の言葉です。今、仏が憐みの心から、大道を顕示してくださった。ここに開示の「示」の字が出てきます。そこに「耳目開明して」と、耳も目も開いた、明らかに言ったと言っていますね。「長く度脱を得つ」、迷いを超えることができました。現実と言いながら、それが全然見えていなかった。このことがはっきりしましたということです。これが開かれたということでしょうね。仏の説法のはたらきは人々の心を開いていくというものを持つているわけです。

身愚神闇 心塞意閉

『真宗聖典』六〇頁

宮城先生はここをよく出されて、考えが愚かだと、そんなレベルではないとおっしゃっておられました。身が愚かなのですね。仏の教えに触れるところに、自分が愚かであったことを初めて知らされるという意味で、開かれてくるということです。これが教えに触れることの実際でしょうね。

「本願大智海」に触れるということは、開

じていたものが破られる、開かれるという、こういうものを持つているわけです。答えに腰を下ろしていた者がそうではないというかたちで碎かれる。そこに初めて仏法に縁を持つということがおこるわけです。ですから、この「開入本願大智海」と、善導大師のお仕事をこの言葉にまとめてくださっています。開入は私たちの上には簡単に起こる話ではないですね。閉じているほうが普通なのです。破られたくないのですから。ですから「開入本願大智海（本願の大智海に開入すれば）」と言いますけれども、そのことが甚だ難しいのです。(文責 研修部門)

今後の聖典学習会の日程

【中止】6月17日(金) 13時～17時

※来年度の開催については、改めてお知らせいたします。お問い合わせは東京教務所(担当:渡邊 楽)まで

教区教化通信 青少幼年部門

青年のつどい兼青年研修会

報告①

東京5組 圓林寺 早川 義亮

去る4月5日～7日に、当初2019年度事業として2020年に企画していた、「青年のつどい兼青年研修会」を、二年越しで開催しました。

2018年度に「蓮如上人御影道中」に参加したところからはじまり、青年層での真宗本廟奉仕団をしようと企画は進んでいきましたが、コロナ下の影響で二度の中止を経て、今回の開催に至りました。

二泊三日での開催日程の中に一泊二日の奉仕団を組み込み、同朋会館で研修を受けるにあたって、教導に竹橋太氏（儀式指導研究所研究員）を迎えて開催しました。竹橋氏には2018年に開催した青年研修会において「儀式とは？」という講題で講義をしていただいていました。今回は「浄土における・浄土に生まれる―現代における真宗の儀式のあり方とその課題について―」という、「儀式」を共通のテーマとした講題で講義をしていただきました。

【講義より】

今の真宗大谷派の僧侶にある問題点として、「葬儀などの儀式は生きていく人のために行う」と過剰に意識したり、「浄土真宗は今の救いであって、未来の救いではない」という考え方から、今を生きている人を対象とした聞法を重視するが、「浄土」や「法」ということがあまり語られず、世間一般の考え方から離れていることがあるのではないか。

・葬儀は人類の歴史と共に続いており、人類は葬儀を行うようになってから、自分と異なる他者が亡くなるということを意識し、自分と他人を区別することができるようになり、自我が芽生えて社会性を獲得した。

・葬儀の役割の一つとしては、人が亡くなることで生ずる共同体の乱れを調整することがある。浄土真宗では葬儀をすることで、亡くなった人を浄土へ送り、その人が仏になって残された人を見守っているという形で、残された人は、その人がいなくなった世界を受け入れることができる。

・鎌倉新仏教が葬儀を引き受けたことで、その教えが広がっていったという歴史的経緯がある。



御影堂を前に記念撮影



講義中の様子

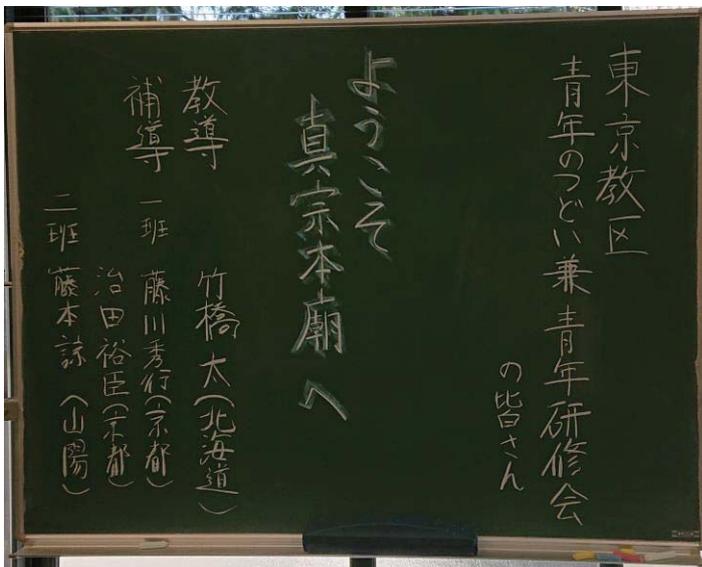
・人はご縁の集まりとして今の瞬間を生きているので、「自分がいる」と確固として信じて「死んで終わる」という考えは迷いであり、そのあり方を問うことによって、見えてくる世界が浄土である。

・釈尊が亡くなった後の無仏の時代に、法に出遇う場所として極楽浄土など「他方仏土」という表現を持つ経典が出てきた。

・『法華経』はこの世で仏になって救う側になる教えであるのに対して、浄土真宗は「凡夫」という救われる側になることで仏が証明される教えである。つまり「凡夫」とは仏に出遇った人のことを指し、この世界では仏にはなれないけれど、仏に出遇ったことによって浄土に生まれ、そこで仏になるという方向性が定まる。

・『無量寿経』の本願が二十四願から四十八願に増えており、増えた内容がほとんど「他方国土」に呼びかける内容となっている。時期から考えて『法華経』の一土の教えを経て、二土の教えをより徹底するようになっていったのではないか。

・手を合わせる、頭を下げるというのは、成就の形、救われた形であり、その形が儀式になっており、儀式を行うことが教化につながる。本尊は「はたらき」であるが、その「はたらき」が儀式という「形」や「仏像」という「もの」にまでなってくれた、といただくことができる。



講義後に行なった参加者内での座談には、教導、補導も参加していただき、意見を交わすことができました。教区内外の現状や悩み、考えを言い合うことが出来るのが、つどいの醍醐味であると改めて感じられる奉仕団でありました。

※7月号へ続く※



「聖空間」

新型コロナウイルスと向き合う生活も3年目となりました。当たり前と思っていた日常は、有り難いことであったと気づかされましたが、現在3歳の子にとっては、この現状が生まれたときからの日常です。

心も体も成長が著しく、自己肯定感を育みたい乳幼児期に、一人ひとりを大切に保育していくことは、どのような状況であっても絶対に守らなくてはなりません。抱っこすること、ぎゅっと抱きしめることは必要不可欠で、当然「密」は避けられません。



当園では、園児のマスク着用は推奨しておらず、お子さんはほぼノーマスクですが、保育者はマスク姿です。表情が見えにくいことによる影響を考え工夫して対応に当たったり、コロナ前と同じように行えなくな

った行事を大幅に変更したりしながら保育を行っています。地元を親子で歩くウォークラリーなど、新しい行事も生まれました。苦慮することも多いですが、それは自分たちの保育を見つめ直し、新たな発想を生み、保育者が考えを深める大切な時間でもありました。

保育の研修もオンラインが主流となったため、多くの職員が自宅から参加できるようになり受講の機会も増えました。先日、真城義磨先生の講義で、「聖空間」という言葉を教えていただきました。私たちの園のホールには阿弥陀様がいます。阿弥陀様の前「聖空間」は、だれもが無条件に尊く、上下・優劣・主従等が無い場所であるということです。子どもおとなも、保護者も園長も新任保育士も、阿弥陀様は、「そのままのあなたでいいよ、今を精一杯生きてください」と、言ってくさっているのでしょう。

誰にとっても安心できて居心地がよくワクワクする楽しい保育園「聖空間」であることを、これからも大切に考えていきたいと思っています。

烏山保育園
(栃木県那須烏山市)

副園長 那須 恵





児童教化連盟

じれん

参加者・スタッフ

募集!!

春の遠足・夏のキャンプ・子ども報恩講を開催しています
また、児童教化に関する研修会（年2回）も行っています
お子様のご参加、スタッフとしてのご参加をお待ちしています



詳しい活動は
←QR (facebook) を
ご覧ください

お問合せは児連事務局まで

〔東京教区児童教化連盟 事務局〕

〒130-0012

東京都墨田区太平2-7-1本明寺内

TEL 03-3623-1536

委員長 本田彰一（東京1組）

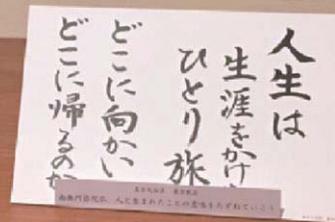
✉tokyojiren@gmail.com

NEW

「掲示伝道ポスター」



ポストカード



2017年度 A・B（2種類）
2018年度 A・B（2種類）
2019年度 A・B（2種類）

■各100円
各6枚入
簡易スタンド付き
はがきサイズ
送料250円
（場合によって500円）

東京教区教化委員会広報出版部門では、毎年掲示板に掲示いただくための「掲示伝道用ポスター」を発行しております。

このたび、生活の中でより身近に言葉に触れていただけるように、

ポストカードサイズの「掲示伝道用ポスターミニ」を発行いたしました！

ご寺院での行事の際に、ご門徒への記念としていかがでしょうか？

お申込み：東京教務所（TEL03-5393-0810/担当:海）まで

はい！こちら真宗会館です

駐	在
日	記



駐在からひとこと

写真：【青年のつどい兼青年研修会】

京都・日野誕生院前（本堂は改修中）

東京教区駐在教導

佐々木 弘明

「自分のフィルター」

昨年の9月頃、コロナの影響で、家で過ごす時間が増え、何か新しいことをやってみようと考え、徒歩圏内に自動車教習所があるので、前々から興味があった二輪（バイク）の免許を取得しようと、教習の申込みに行った。同じようなことを考える方も多かったのか、混み合っていて、教習の開始は12月になり、普通二輪・大型二輪と2種類の教習を受けたため、3月の末に卒業し、4月に免許取得となった。

20数年ぶりに教習所へ通ってみて、真宗会館の近隣にこんなに大勢の若い方々が通っている場所があるんだという驚きや、卒業検定での緊張感など、新鮮な感覚を味わうことができた。

二輪の技能教習は、基本的に教官と教習生2名が1組になって行われた。あるときの教習で一緒になったのは、「金髪に耳にピアス」の話かけづらそうな若い青年だった。教習前は、一言

も交わすことがなかったが、教習が終わったあと、向こうから歩み寄ってきて、「免許をとったら何のバイクに乗る予定ですか？」と気さくに話しかけてきてくれたので、しばらくバイクについての話をして、お互いの卒業検定合格を願い、教習所をあとにした。

帰宅したあと、青年に対して「金髪に耳にピアス」という見た目の印象だけで、自分からは話しかけづらいなと判断してしまったことに申し訳ないという思いが湧いてきた。他の人に対しても、少しでも関われば、その人の印象はガラッと変わることがあるのに、見た目だけで「この人は、こういう人だ」と決めつけることは、自分の価値観という偏ったフィルターに、絶対的な信頼を置いているということなのではないだろうか。

ふと自分の姿を鏡で見してみる。坊主頭・眼鏡・スーツ・マスク。これは話しかけづらいなと思った。

はい！こちら 真宗会館です



東京教務所 主計
西藤 量樹

担当：会計・収納事務全般
 応援しているスポーツ選手：久保建英
 （サッカー日本代表）

スポーツ観戦に特化した某有料チャンネルを登録した。毎月一定額を支払うと、いつでも自分の好きな時に好きな番組をテレビやスマートフォンで見ることができるというものだ。

いつでも自分の好きな時に好きな番組を見ることができるということは魅力的ではあるが、テレビを見ることに費やす時間が増えてしまう懸念があった。しかし、上手に付き合っていくさえすれば良い気晴らしになるだろうということと、登録から1カ月間は無料、いつでも解約可能という宣伝コピーに負けて登録を決断した。

それから自分が、某有料チャンネルに支配されることに時間はかからなかった。本当に見たい番組だけを時間を区切って見るつもりだったのに、気づいたら睡眠の直前まで、ひどい時には睡眠時間を削ってまで好きなだけ番組を視聴している自分がいた。睡眠前のテレビやスマートフォンが睡眠の質を

低下させること、長時間の視聴が目にも悪影響を与えるということは実感もあり、頭では分かっているのだがやめることができない。

様々な分野での科学技術の進歩により、ひと昔前では考えられないほどに普段の生活の利便性が向上した。上手に使い分けていきさえすれば、私たちにとって多くのツール群はとても有益なものとなる。しかしこれらツール群に、人は気づかない内に引きずり込まれていく危うさを持ち合わせている。科学技術を完全にコントロールすることができないことはこれまでの人類の歴史でも証明されている。

間もなく、登録から1カ月が経過し、無料視聴期間が終了する。登録継続是非の判断が迫られている。いずれにしても商業戦略やツール群に振り回されてしまっている自分の現状は認識しておきたい。

人事異動



離任



大阪教務所書記 大山 我聞おおやま がもん

このたび、4月1日付で大阪教務所書記を拝命いたし、真宗会館を離れることになりました。着任から2年と8カ月という長いようで短い期間ではありましたが、東京教区の方々をはじめ、首都圏の皆様には大変お世話になりました。

在職中は首都圏の広報と真宗会館諸行事に関わる業務に携わらせていただきました。着任から半年ほどでコロナウイルスの感染拡大の影響により、思うように動けずもどかしさを感じる日々が続いておりました。未曾有の厳しい状況の中でありましたが、新しいことに挑戦させていただく機会を多数いただき、首都圏ならではの貴重な経験をさせていただきました。偏に皆様からお支えいただきましたことと厚く御礼申し上げます。

首都圏での学びを糧として新任地でも精進して参りますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



着任



首都圏教化推進本部推進要員 福嶋 晃基ふくしま こうき

このたび、4月1日より首都圏教化推進本部推進要員として着任いたしました。福嶋晃基と申します。所属寺は北海道教区南第3組智恵光寺です。

法政大学大学院福祉社会専攻を修了後、大谷専修学院に入学し、この春に真宗大谷派教師資格を取得いたしました。大学院では「福祉と寺院の関わり」を研究テーマとして、福祉という切り口から、首都圏の生活者を支える寺院の取り組みについて研究しております。福祉を学んできた経験と、大谷専修学院

での真宗の学びを活かし、首都圏の教化に尽力して参ります。

宗務に携わる中で出会う様々なご縁を大切にしながら、皆さまと共に真宗の教えを聞いていきたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



首都圏教化推進本部推進要員 市野 潤いちの しゅん

このたび、4月1日より首都圏教化推進本部推進要員として着任致しました市野潤と申します。所属寺は千葉県市川市の東京教区千葉組道誠寺です。

4年前にご縁を頂戴しまして、得度、同朋

大学別科にて1年間真宗大谷派教師となるため、仏教や真宗の教えにはじめて触れさせて頂き、学ばせて頂きました。別科を卒業してからは、主に自坊で法務を中心に自分自身お念仏の教えをわからないなかで、ご門徒の方と共に勤めさせて頂き、右往左往しながら現在に至っております。

そして、今回新たに真宗会館首都圏教化推進本部の推進要員として着任し、特に首都圏の真宗に対して馴染みの薄い方や郷里から離れてしまった方々への聞法のきっかけになるようなサポートができるよう、関わる方々との御縁を大切に、敬意を持って職務に励んでいきたいと思っております。
今後とも御指導、御鞭撻の程、どうぞよろしくお願い致します。



首都圏教化推進本部法務員 西井 誠純にしい まこと

このたび、4月4日より首都圏教化推進本部法務員として勤めさせて頂いたことになりました。西井誠純と申します。所属寺は東京教区東京1組の敬覚寺です。

この春、大谷専修学院を卒業いたしました。1年間という短い期間ではございましたが、幅広い世代の方と、寮と学校での共同生活を送っていました。そこで学んだことは、人は関係性の中で生きかされているということです。単純なことのように感じますが、私はこのことが、人として生きることにいっても大切なことなのだと気づかされました。

大学、社会人、そして専修学院と、合計8年住み慣れた京都を離れることは、さびしさや不安が付き纏います。けれども、浄土真宗

を拠り所とする諸先輩方が勤めている、ここ真宗会館に身を置くことに大変安心を感じております。

まだ何事にも至らない私ではございますが、何卒皆様にご教授を賜りつつ、精進してまいります。どうぞ宜しくお願い致します。



首都圏教化推進本部法務員 高橋 唯真

この度、4月1日より首都圏教化推進本部法務員として着任することになりました高橋唯真と申します。出身は広島県呉市で、自坊は山陽教区安芸南組得蔵寺です。

今年の3月までは京都の大谷大学で4年間

真宗学を学んでいました。

首都圏教化推進本部法務員の一人として、携わるといふことをとても嬉しく思います。

田舎育ちということもあり、東京という初めての地で楽しみな部分も少しありますが、やはり緊張や不安な気持ちも大きいです。たくさんの方との出会いを大切にしながら法務に携わりたいと考えております。わからないことばかりでご迷惑をおかけしてしまうこともあるかもしれませんが、どこまでも学びの姿勢を忘れずに精進していきたいと思っております。何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひします。



退職



金井 隆之

このたび、首都圏教化推進本部推進要員を任期満了のため退職いたしました。教区の皆様におかれましては、主に親鸞講座やココロダイアルでお世話になりました。

着任時より皆様に温かく迎えていただき、ご指導いただきながら首都圏教化の取り組みをとともに歩ませていただきました。まずもって御礼申し上げます。

それぞれの現場で先生方のお話を聴聞させていただくたびに、私自身の課題として大切なことに気づかされました。また、教えを求

めに来られる方々の裏にはそれぞれ痛みを抱えていらつしやったことが印象に残っております。

このような大切な応答の現場に身を置かせていただきましたこと大変ありがたく感じしております。

最後になりますが、皆様のご健康とご多幸を念じ申し上げ退職の挨拶に代えさせていただきます。



森山 貴泰

このたび、真宗会館における首都圏教化推進本部法務員としての勤めを辞し、東京教区

埼玉組大久保山淨樂寺へ入寺いたしましたので、ここに報告、ご挨拶申し上げます。

4年の在職を閉じますに、今春看又過の後悔は禁じ難く、既自以心為形役の欺瞞や伯樂不常有の息むことを知らない愚痴に拘泥し過ごしたことは、甚だ残念ではございますが、初めて経験する首都圏での法務執行のなかで地元を離れたご門徒様とも、お手紙などしつかり関係を繋いでおられるご住職様方の真摯な姿勢を拝見し、お寺との関りは全くないという都心生活者の方々が、お身内との愛別離苦を逆縁として、ご本尊に向き合う時間を持たれるようになられ、葬儀社の方までもが「話を聞いてこう感じた」と参列者の一人として場をいただけるような最前線を過ごせたことは、何ものにも代え難く思います。

今後は教区の一員として、師の篤実を敬い、本願念仏の一道を歩んでゆく所存でございます。教区の皆様におかれましては、退職のご挨拶とはいえ、お別れでもなく、お目汚し恐縮ですが、今後ともご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



阿部 司

このたび、首都圏教化推進本部法務員の任を退職することとなりました。真宗会館という聴聞の「場」と3年というお役目の「時」を過ごす機会をいただけたこと、誠に有難いことでありました。儀式やお給仕の生活を通して、お育ていただいた東京での生活でした。

さて、新たな歩みを故郷新潟の地にて歩もうと右往左往する毎日を送っております。とはいえ全く今までの歩みを空しいものにしたくないという心が出てくること、不思議におもうことです。

最後に、東京教区でのみなさまとは距離的に離れてしまうこと名残惜しくあります。名残惜しいですが、まず一度、ほんとうにお世話になりました。

教区の情報をおあなたに あなたの声を教区に!!

一緒にネットワーク9を作りませんか?

編集員募集中!!

Network9

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

取材、原稿執筆、校正、デザインなど、紙面作りに関するすべてを行います。お寺の新聞やチラシを作る時のスキルも学べるかもしれません。パソコン初心者の方でも大歓迎です。先輩編集員が丁寧にご指導します。一緒に楽しいネットワーク9を作っていきましょう。興味がある方、お問合せは東京教務所（担当：佐々木）まで

ネットワーク9へのご意見・ご感想をお寄せください
〒177-0032 東京都練馬区谷原1-3-7 東本願寺真宗会館内 東京教務所
【電話】(03)5393-0810 【ファックス】(03)5393-0814
【mail】nw9@ji-n.net



スマホやパソコンでぜひアクセスを! 東京教区のホームページ

暮らしに
じいーん



www.ji-n.net

検索 暮らしにじいーん

お寺をもっと身近に

多彩なコンテンツ

じいーん散歩 **New**
しんらんさまめぐり
法話/行事・講座
なるほど仏事作法
寺院検索
他

じいーんのお寺も載っています!



スタッフ募集

パソコン技術は不要です

ホームページ班のメンバーは僧侶に限らず、月に約1回のペースで集い、アイデアを出し合ったり、時には現地取材もしています。ぜひ一緒に活動しませんか? (お問合せは教務所/立野まで)



涌ゆう

編集員の随筆



緊急事態宣言やまん延防止等重点処置等のいわゆる宣言のないゴールデンウィークをようやく今年を迎えました。昨年、一昨年と比べるとテレビでのレジャー施設等の紹介や自坊周辺も僅かながらに賑わいを感じるようになって、少しばかり気持ちも晴れやかになつたように思います。自組においては、今年に入ってから聞法会や研修会において、徐々に対面での参加の受け入れを増やし、久しぶりにお会いする方や画面越しには何度もお会いしていた方との初めましてといったこともありました。主催者側として準備等々は大変さもありましたが、会場参加の皆様との言葉のやり取りや感想などを受け、やはり出来る限り場に赴き、腰を据えて言葉を聞いていくことはとても大切であると感じたと同時に、組の行事として更なる受け入れ体制を整えなければと感じました。その中で自身についてはどうかと、ふと考えてスケジュール帳を確認したところ、ほとんどの会がオンライン参加

となっていました。有志の会や、外部団体の集まりなど物理的に参加することが難しいものが出来ますが、時間を作れば足を延ばすことが出来る会さえも。今しがた、場に赴く云々を述べましたが自分自身が出来ていない状況を知らされることになりました。コロナ禍でオンラインは可能性をとっても感じるものであり、配信に関しても独学で勉強をして自坊や自組に取り入れてきました。ですが、良いところ（自分にとって楽な方法）ばかりに偏りすぎて、なんだか本末転倒な気がしてしまいました。対面、オンラインそれぞれメリットやデメリットは確かにありますが、その可能性を自分から怠けるためのツールとして使ってしまったているなと思う節がありました。今一度、聞法ができる、人と語ることが出来なかった時期を考えていくと、普通でいられる有難さを改めて考えねばと思いました。

（東京六組 光圓寺 櫻田純）